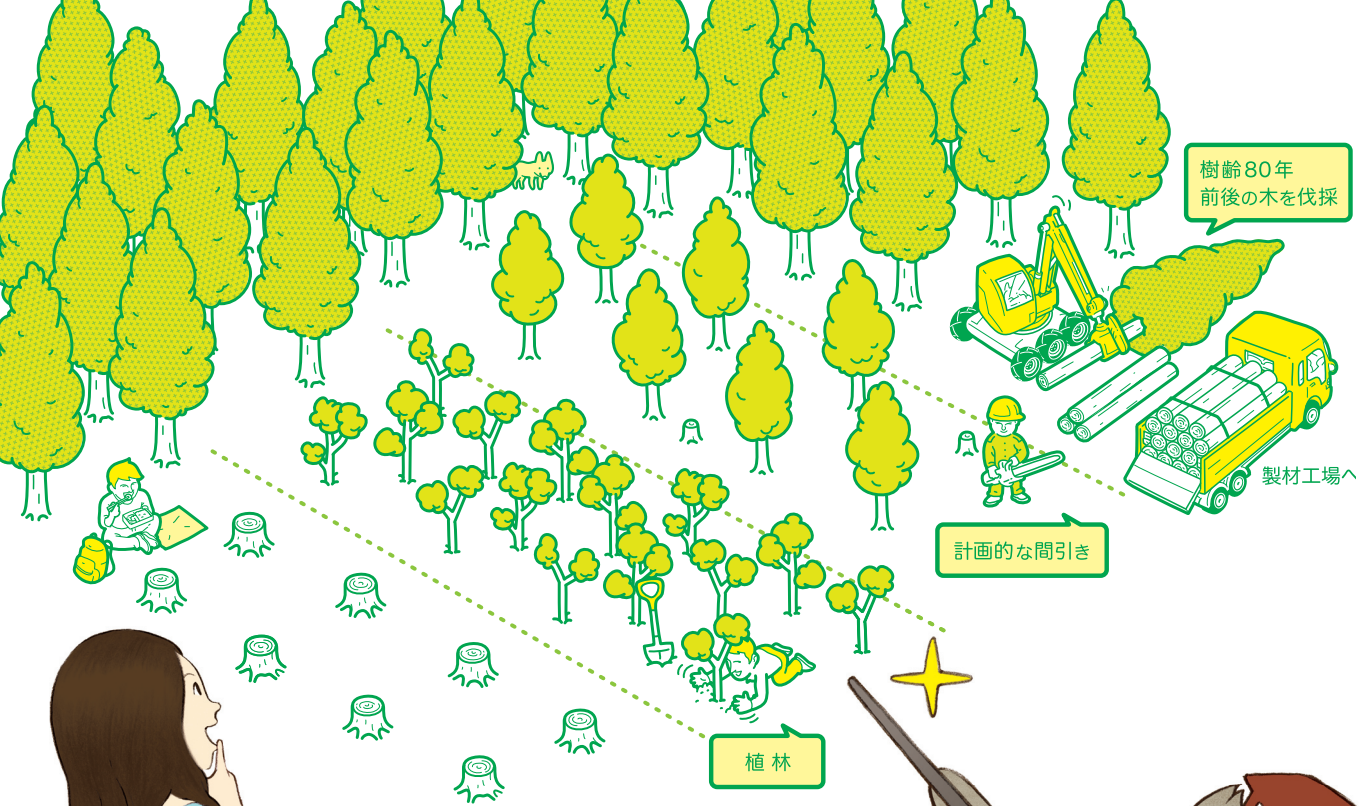




「木」は「人間」のパートナー

あなたの選択が、地球を変える！

未来の地球のため、未来の私たちのためののです。
そして、なるべく木を切らないように守っていくのね。
おっと、それは間違いです。実は、木は樹齢80年くらいになると、そんなに多くのCO₂を吸収できなくなります。だから伐採し、活発にCO₂を吸収する、若い苗木を植える方が良いのです。

しかも、樹齢80年前後の木は、家建てる構造材としてサイズも強度も理想的。100年以上も住み続ける、耐久性の高い家を建てることのできるのですよ。
ほほー！そつなのね。
真似しないでくださいよ（笑）。そう、だから良質な「木の家」に住むことは、森を育てることになるし、地球温暖化を防止するためにも、良いことなのです。木は倒れて朽ちてしまったり、燃やされてしまえばCO₂に戻ってしまいますが、木材として利用されれば、吸収したCO₂をそのまま固定しておけるので、「長く住み継ぐ」ということも大切になってきます。
とてもよく分かったわ。気付いたら、実行する…100年前にスウェーデンの人たちがそうしたように、私たちも未来の地球のために、できることから始めないといけないのね。木を上手に使って、森を育てる…。今私たちが住んでいる「木の家」も、何十年も前に、誰かが未来を思

未来のために、地球環境を守るために、何ができるんだろう…。
意外にも、答えの1つは身近なところにありました。
木の家で暮らす——それだけで、私たちは森を育てることが可能です。
CO₂を減らすことが可能です。
100年もの昔、遠く離れたスウェーデン。
到底、出会うことのなかった人々が、私たちの今に残してくれた大切な木々…。
さあ、次は私たちが、まだ見ぬ誰かのために、より良い選択をする番です。

知れば知るほど見えてくる。
もの知り“ウググラ博士”のちょっとしたおせっかい。

世界的問題となっている「地球温暖化」。
その原因の一つが、CO₂などの温室効果ガスの増加です。
CO₂を減らして、未来の子どもたちに
住みやすい地球を残すために
私たちは今、何ができるのでしょうか。

今日、息子が林間学校から帰って来るなり「お母さん、木ってすごいね。僕たちが出した二酸化炭素を吸って、酸素に変えてくれてるんだって」って言うの。
——遠い昔、理科の時間で習った気がするわ。太陽と水と二酸化炭素があれば、酸素とデンプンができる…。そのデンプンが

では、わかりやすく説明しましょう。まず、地球の温度がどんどん高くなっている「地球温暖化」。その原因の1つが、温室効果ガスであるCO₂の増加だということとはご存じですよ。樹木はCO₂を吸収して、光合成することによってO₂をつくる。つまり光合成によって地球環境を守ってくれているのです。

もちろん、むやみに木を切つて、森林を破壊しては、良いパートナーとは言えないでしょう。環境先進国といわれるスウェーデンでさえ、今から100年ほど前には、森林破壊の危機がありました。イギリスの産業革命に影響され、豊かな森林資源を削ってエネルギーに

光合成と地球環境…どんな関係があるの？ なんだか難しそうな話だね。

でも、人間って勝手に木を切つて、紙にしたり、家を建てたりするわよね。大切なパートナーを壊しているってことかしら…。

木の幹になる…。
ほっほー！光合成のことですね。
そつそつー！光合成！って、えっ？ あなたは…どなた？！
私は「ウググラ」博士。地球環境の問題にはちょっとうるさいんです。

私たち今いるのも木のおかげなのね。
でも、木にとっても、私たち人間は大切なんですよ。そもそも、木は光合成をしなければ成長できない。私たちの出すCO₂で光合成をしているのですから私たちと木は、お互いを支え合う、良きパートナーなのです。

替えようとしたのです。
まあ！「森と湖の国」といわれるスウェーデンが？…でもどうやって回復させたのかしら。

自然を愛し、自然とともに生きるスウェーデンの人たちは、早い段階で「自然破壊」の愚かさ気が付き、森を守る努力を始めたのです。伐採量より成長量が上回るように木を植える…スウェーデンは今や、世界に誇る豊かな自然を有する国となっています。スウェーデンの子どもたちは、小学校の頃から授業で「植林」を体験します。自分たちの次の世代のために、木を植える…。子どもたちは誇らしさで胸がいっぱいになるといいますよ。

100年前のスウェーデンの人たちに感謝しなきゃね。
そうです。「木を植える」ことは
いながら植えてくれた木でできてるってことなのね。
そのとおり。なんだか嬉しくなりませんか。
ほんとね。大切に、ずっと住み継いでいかなきゃね。
ウググラ博士、ありがとう。